

◆ 役員座談会 —EIZOの事業とSDGs—

EIZOの事業活動や製品・サービスは、どのような分野で、どのSDGsの目標達成につながり、
どういった社会課題の解決に貢献しているのか —。

将来のビジネスモデルを踏まえながら、CSR委員会の委員である執行役員が集まり、話し合いました。



顧客や投資家の意識の変化

比良: 営業部門ではお客様に対して提案活動を日々行っており、その中で、SDGsやESGといったキーワードを耳にする機会が増えました。お客様は製品が環境配慮型であるということはもちろん、環境やガバナンスに対する当社の企業姿勢も加味したうえで当社製品を選んでくださっており、世の中における意識の高まりを痛感しています。

有生: 投資家の方々についても同様です。IR室では投資家の方々から直接お声をいただきますが、事業環境やビジネスモデル、競争の優位性に加えて、あるべき姿やビジョン、バリューチェーン上の強みについて聞かれることが増えました。SDGsも2030年という中長期のあるべき姿を描いたものです。社会や企業の活動に対する人々の視点がより中長期的になり、サステナブルであるかどうかに着目するようになったと感じています。

村井: そうですね。近年は企業が事業を通じたSDGsへの貢献を掲げたり、投資のトレンドとしても、企業の環境・社会・ガバナンスへの取組みに注目し、中長期の戦略や事業活動が評価されるESG投資が増えてきています。当社は世界中のさまざまな市場に商品を提供しており、顧客や投資家を含むステークホルダーからは、グローバルな意識を反映した多様な社会的要請が寄せられます。これらの要請に、事業活動を通じて誠実に応えていくことが求められているのです。

◆ 参加者(役職は座談会開催当時:2018年6月)



むらい ゆういち
村井 雄一

取締役 専務執行役員
総務人事担当 人事部長



はしもと まさき
橋本 雅之

専務執行役員 開発担当
グローバル開発戦略部長
兼 知的財産部長
兼 モジュール&ものづくり
統括部長



しむら かずひこ
志村 和秀

常務執行役員
企画・海外営業担当 企画部長
兼 海外営業部長



ひらき としみね
開 敏峰

上席執行役員
製造担当 製造部長



ひら きたか
比良 浄敬

執行役員 営業1部長



えびす まさき
恵比寿 正樹

執行役員 資材部長



ありせ まなぶ
有生 學

執行役員
経理部長 兼 IR室長



はんしょう ひでき
番匠 秀樹

執行役員
品質保証部長兼 技術管理
部長

EIZOの事業活動とSDGsとのかかわり

橋本: 当社はヘルスケアやクリエイティブワーク、航空管制など、モニターの表示品質や信頼性が業務の質に直接的に関わってくるような市場に対し、自社の技術と品質で貢献しており、まさに事業活動を通じた社会貢献を行っています。たとえば診断に使われるモニターは、表示に起因する誤診に至らないよう、その品質を担保しなければなりません。時間が経つと輝度の低下など劣化が起こるのが通常であるモニターに対し、導入初期から常に一定のクオリティを保って表示できるようにすることは、医療の質として大変重要です。

志村: さらにヘルスケア市場では、モニターを提供するだけでなく、画像診断に関する研修トレーニングも実施しています。医師の方々にはEIZOの製品について深く知ってもらうだけでなく、より良い画像診断環境の実現に貢献することも含めて、SDGs目標の3「すべての人に健康と福祉を」につながるのではないのでしょうか。

開: 事業活動との関わりで言うと、生産の工程で出た廃材をグループ会社への部材出荷用の梱包材として再利用することで、コストの削減と資源リサイクルの両方を達成しています。これは、SDGs目標の12「つくる責任、つかう責任」に貢献していると思います。

比良: 営業の現場でも、製品を大量に納入する場合は、使用しない付属品をあらかじめ取り除いて納品することで、取引先での廃棄物削減に寄与しています。